

# 我が家のヒーロー・カブトムシについて



中川 慶太

NAKAGAWA Keita

(公財)水道技術研究センター  
管路技術部管路技術部長

皆様、突然ですがカブトムシは好きですか？あんまり興味がありませんか？

私は大好きです。今回の談話室では、勝手ながら私が大好きなカブトムシのお話をさせていただきます（写真-1）。

カブトムシの名前は、見た通りなのですが、戦国武将の兜に形が似ていることが由来と言われております。

力強く芸術的なフォルム、クールな色彩、どこをとってもカッコイイ昆虫の王様と言っても異論はないのではと思います。

私がカブトムシと出会ったのは、小学生の頃でした。そのころは、近所の森の木に時々カブトムシ（成虫）がとまっているのを見つけたら、捕まえて飼育



写真-1 立派な兜が名前の由来



写真-2 カブトムシのオスとメス

していました。

餌はスイカなどを与えていました。オスメス居れば、卵を産み、幼虫がたくさん生まれたこともありましたが、残念ながら、幼虫から成虫に羽化したことはありませんでした。

そんな、私も今では小学生（男子2人）の親となり、子どもも私と同じようにカブトムシに興味を持っており、現在、一緒にカブトムシを飼育しております（写真-2）。

長男が小学校1年生の時に、友人からオスメスの成虫をいただき、卵が産まれました。無事、幼虫になり成長を見ていたのですが、残念ながら羽化できませんでした。

原因は、カブトムシ（幼虫）の虫かごに大量にあったウンチの除去処理と、土（カブトムシ幼虫用）の適度な保湿管理（乾燥していた）ができてなかったことと判断しました。

ちなみにカブトムシ（幼虫）のウンチは無臭でスイカの種のような形状です。

幸い、長男が小学校2年生の時、また同じ友人からカブトムシ（今度は幼虫）をいただきました。今回は、ウンチの除去を2週に一度、土にも塩素を除去した水を含ませ適度な保湿も心掛けました。

おかげさまで、ようやく成虫の羽化に成功し、その年は9匹ほど成虫になりました。

1つの虫かごにオス2匹を入れると喧嘩してしまうので、子供の友達にプレゼントしていたのですが、子供のパパさんのほうが喜んでいてお礼をいただきました。

私と同じような感性の人（パパ）がいて勇気づけられました。

そして現在4年目、この原稿を執筆中も次世代の幼虫を飼育中で、まだ育成のサイクルは継続出来ております（写真-3、4）。

昔と違い、飼育方法の情報や、カブトムシの生態



写真-3 幼虫から育てた成虫



写真-4 現在飼育している幼虫

について研究が進んでおり、皆様がひょっとしたら知らないカブトムシ情報があるかもしれませんので、少しでもご紹介いたします。

カブトムシの最大の大きさがどのくらいか知っていますか？なんと人に飼育された個体では最大88mmでギネス記録となっております。飼育者はカブトムシで有名な芸能人の方です。カブトムシの大きさについては、ブリーダーが日本中にいて日々研究を重ねていて、80mmは越えられるけど、88mmまで大きくするのは大変難しいそうです。

カブトムシの大きさは、ほぼ幼虫の時期に決定され、その時の食事の栄養に左右されます。そうかといって、栄養価が高い土をたくさん食べさせても、太るだけで体長が大きく伸びる訳ではないそうです。

私も奮発してちょっと高価なバイオ土を与えてみてチャレンジしたこともありました。幼虫時代から大きくなり、羽化したら、お腹周りが大きいカブトムシが産まれました。全体的にもちょっとだけ大きくなりましたが、それでも70mm前後くらいでした。88mmのカブトムシはやっぱり凄すぎですね。

あと、カブトムシ（成虫）の鳴き声を知っていますか？蝉のようにデッカイ声ではありませんが、カブトムシも鳴くのです。私の家のカブトムシはキューキューと夜中に鳴いておりました。この現象は、カブトムシの腹部が擦れ、音が発生すると言われており、興奮状態にあると鳴くのでは、と言われております。

また、幼虫についての情報は、孵化してから地中で2回脱皮します。これは幼虫を飼育していても、地中にいるため、なかなか脱皮の瞬間を見ることがないためあまり知られてないようです。

さらに幼虫の時点でオスメスの判断ができる方法があります。もしカブトムシの幼虫を飼育する機会があったら、幼虫のお腹を見てください。お腹側の

下の方に黒い三角のあざのようなものがあります。それがあればオス、なければメスとのこと(写真-5)。



写真-5 お腹の黒い斑点。この幼虫はオス

精巣と卵巣の違いのようですが、大変見にくい微妙なあざなので、なかなか判り辛いのですが、もし分かって実際に当てられれば子供に自慢できるのでチャレンジしてみてください。

最後の情報はカブトムシのツノの正体です。ツノの正体は最近、研究により判明してテレビでも、時々放送されますので、有名かもしれませんが、幼虫時の頭部に小さく折りたたまれた状態の袋があり、それが幼虫から蛹になる間に膨らんで所謂カブトムシのツノの形状になるとのこと。お祭りで売っている子供のおもちゃの吹き戻し（ピロピロ笛）のようなイメージです。最初にテレビで見るときはビックリしましたが、最近判明したとのことで、研究された方々の情熱には頭が下がりました。

いろいろ記述させていただきましたが、どうでしょうか？皆様カブトムシにちょっと興味が出てきたのではないのでしょうか？

私も子どもと一緒に飼育していますが、自分のほうが楽しんで飼育しております。皆様も機会があれば是非、育ててみてください。カッコイイ楽しいですよ!!